

WHO ファクトシート

麻疹（はしか）

Measles

2017年10月

重要な事実

- ・麻疹（はしか）は、安全で費用対効果の高いワクチンがあるにもかかわらず、幼児の最も大きな死亡原因の一つである。
- ・2015年には世界で89,780人が麻疹により死亡し、麻疹による死亡が初めて10万人を下回った年となった。
- ・麻疹ワクチンにより、2000年から2016年の間に麻疹による死亡は、世界全体で84%減少した。
- ・2016年には、世界の子どもたちの85%が最初の誕生日を迎えるまでに、定期接種を通じて麻疹ワクチンの第1回接種を受けており、接種率は2000年の72%から向上している。
- ・2000年から2016年の間に、麻疹ワクチン接種によって2040万人の死亡が予防できたと推計され、麻疹ワクチンが公衆衛生における最も費用対効果の高い施策の一つであるといえる。

本件ファクトシートについて、厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)では全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Measles ファクトシート原文は [こちら](#)